

精神保健福祉援助演習（基礎）

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本科目は、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	自己覚知①
2	自己覚知②
3	基本的なコミュニケーション技術①
4	基本的なコミュニケーション技術②
5	基本的な面接技術の習得
6	グループダイナミックス活用技術
7	情報の収集・整理・伝達の技術の習得
8	課題の発見・分析・解決の技術の習得
9	記録の技術の習得
10	地域福祉の基盤（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）
11	地域福祉の基盤整備（地域アセスメント）
12	地域福祉の基盤整備（地域福祉の計画）
13	地域福祉の基盤整備（ネットワークキング）
14	地域福祉の基盤整備（社会資源の活用・調整・開発）
15	地域福祉の基盤整備（サービス評価）
16	まとめ

【履修上の注意事項】

このゼミは、昨年度行われたオリエンテーションに出席し、その後課された課題をすべて提出し、その他履修条件を満たしたことを履修条件とする。

【評価方法】

出欠状況、レポート等提出物を評価の対象に入れるが、もっとも大きな評価の対象は、ゼミのなかでの議論に参加ができることである。精神保健福祉分野や福祉分野の相談員としての集団参加力、積極性が求められるため、ゼミ参加が大きな評価の対象となる。

【テキスト】

特定の著書をテキストとしては使用せず、ゼミ進行のなかで使用する資料やテキストにかわるものを指示していく。

【参考文献】

精神保健福祉援助演習（専門）

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉援助技術の体験的学習の場として1年を通じて学習していく。精神疾患をかかえながら生きるということはどういうことか、精神保健福祉にかかる資源、ケースの見方・聞き方、当事者や家族への対し方、技術としての面接、グループの運営の仕方、NPO法人や地域福祉の展開の意義などミクロからマクロへの展開を体験的に伝える場とすることを目的とする。

【授業の展開計画】

1年間を、①利用者理解のための基本的態度、②援助技術の習得、③精神保健福祉をとりまく社会資源の学習、④精神保健福祉-現在と未来に分ける。それぞれの中で具体的な講義・活動内容について説明する。

【履修上の注意事項】

精神保健福祉援助技術演習は、講義で習得した内容を体験的・具体的に学習するためのゼミである。従ってその履修に際しては、少なくとも精神医学、精神保健福祉論、精神保健福祉援助技術総論および各論の履修を終了しておくことを条件とする。

【評価方法】

評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。

【テキスト】

講義開始時にテキストについては説明する。

【参考文献】

精神保健福祉援助実習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 実験実習

単位数 7

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉援助実習指導

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 講義実技

単位数 6

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】